

科目名	職場管理学						
担当講師	櫻田 義樹						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	4	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義						

授業概要

管理とは何か、とすることを通じ、様々な観点から理学療法の現場における管理の必要性を学修します。

学修到達目標

1. 管理とは何かを理解出来る。
2. 管理の種類と考え方を理解出来る。
3. あるべき管理者の姿について考察できる。

授業計画

- | | |
|------|-------------------|
| 第1回 | 管理総論① |
| 第2回 | 管理総論② |
| 第3回 | 管理組織① |
| 第4回 | 管理組織② |
| 第5回 | リハビリテーション科における管理① |
| 第6回 | リハビリテーション科における管理② |
| 第7回 | 業務管理① |
| 第8回 | 業務管理② |
| 第9回 | データ管理 |
| 第10回 | 労務管理① |
| 第11回 | 労務管理② |
| 第12回 | 医療安全① |
| 第13回 | 医療安全② |
| 第14回 | 職能団体 |
| 第15回 | 演習 総括 |

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材

参考図書・文献

リハビリテーション管理学（医学書院）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

学生諸君は現在管理される側にいますが、臨床においてはあらゆる場面で管理が必要となります。未来の事と思わず、しっかり学修してください。

科目名	地域理学療法実践実習						
担当講師	長野由紀江 佐藤浩哉 中嶋奈津子						
実務経験の概要	長野由紀江 : 理学療法士 医療施設において実務経験を有する。 佐藤浩哉 : 理学療法士 医療施設・介護保険関連施設において実務経験を有する。 中嶋奈津子 : 理学療法士 医療施設・介護保険関連施設において実務経験を有する。						
履修年次	4	単位数	2	時間数	60	開講時期	後期
授業形態	講義/実技/実習/オムニバス						

授業概要

在宅生活を送る対象者の生活を知るとともに在宅生活者への理学療法介入を経験し、在宅介入における課題や介入特性を理解する。

学修到達目標

1. 在宅生活における理学療法の目的、役割を理解できる。
2. 在宅生活者の課題を理解できる。
3. 在宅生活者の課題を解決するための介入を理解できる。

授 業 計 画

第1回	在宅リハビリテーションの概要①	長野由紀江
第2回	在宅リハビリテーションの概要②	長野由紀江
第3回	在宅リハビリテーションの概要③	長野由紀江
第4回	在宅リハビリテーションの概要④	長野由紀江
第5回	在宅リハビリテーションの概要⑤	長野由紀江
第6回	在宅リハビリテーションの概要⑥	長野由紀江
第7回	在宅リハビリテーションの概要⑦	佐藤浩哉
第8回	在宅リハビリテーションの概要⑧	佐藤浩哉
第9回	在宅リハビリテーションの概要⑨	中嶋奈津子
第10回	在宅リハビリテーションの概要⑩	中嶋奈津子
第11回	訪問リハビリテーションの実習①	訪問施設実習担当
第12回	訪問リハビリテーションの実習②	訪問施設実習担当
第13回	訪問リハビリテーションの実習③	訪問施設実習担当
第14回	訪問リハビリテーションの実習④	訪問施設実習担当
第15回	通所介護リハビリテーションの実習①	佐藤浩哉
第16回	通所介護リハビリテーションの実習②	佐藤浩哉
第17回	通所介護リハビリテーションの実習③	佐藤浩哉
第18回	通所介護リハビリテーションの実習④	佐藤浩哉
第19回	実習後セミナー①	長野由紀江
第20回	実習後セミナー②	長野由紀江
第21回	実習後セミナー③	長野由紀江
第22回	実習後セミナー④	長野由紀江
第23回	実習後セミナー⑤	佐藤浩哉
第24回	実習後セミナー⑥	佐藤浩哉

第25回	実習後セミナー⑦	佐藤浩哉
第26回	実習後セミナー⑧	佐藤浩哉
第27回	実習後セミナー⑨	中嶋奈津子
第28回	実習後セミナー⑩	中嶋奈津子
第29回	実習後セミナー⑪	中嶋奈津子
第30回	実習後セミナー⑫	中嶋奈津子

評価方法

提出課題

教科書

プリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

実際の訪問理学療法を経験することで、在宅生活者の生活状況や課題を考える機会となります。対象者、実習に協力いただき関係者への敬意や感謝を忘れず学習してください。尚、講義予定は授業の進行状況を勘案して適時変更となることがあります。

科目名	総合実習						
担当講師	佐藤浩哉 菊池賢汰 長野由紀江 及川龍彦 戸来幸恵 中嶋奈津子						
実務経験の概要	佐藤浩哉 : 医学博士、理学療法士 介護支援専門員、病院・介護施設等での実務経験を有する。 菊池賢汰 : 理学療法士 医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する。 長野由紀江 : 理学療法士 医療施設において実務経験を有する。 及川龍彦 : 理学療法士 医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する。 戸来幸恵 : 理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。 中嶋奈津子 : 理学療法士 医療施設、介護保険施設において実務経験を有する。						
履修年次	4	単位数	16	時間数	720	開講時期	通年
授業形態	実習						

授業概要

臨床教育者の指導の下、対象者への理学療法評価に基づいた理学療法を実践する。

学修到達目標

1. 理学療法について一連の流れを理解できる。
2. 理学療法業務を実践できる。
3. 一定の助言のもと、臨床の評価に基づいた治療を実践できる。

授業計画

実習期間 第1期 令和6年5月8日（水）から6月28日（金）
第2期 令和6年7月29日（月）から9月18日（水）

実習施設 医療施設

実習内容 1. 臨床教育者の指導の下、対象者への評価および理学療法を実践する。
2. 社会人としての良識を持った行動を行い、スタッフや施設職員との連携を実践する。
3. 臨床において必要な学修・経験を積み、理学療法技能向上を図る。
4. 自身の行動を振り返り、課題がある場合は修正する。

実習後セミナー 1. 実習を振り返り、課題・成果を検証することで、今後の学修目標や計画を立てる。
2. 臨床において経験した評価や情報を下に、対象者のレポート、サマリーを作成し、理学療法における思考過程を学修する。
3. 症例検討を行い、臨床的思考過程を深める。

総合実習後評価 総合実習終了後に実施し、総合実習で習得した臨床技能が卒業時到達目標の水準に達しているか、評価する。

評価方法

提出課題（70％） 評価実習後評価（30％）

教科書

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

学内での学修に励み、別に発行される「臨地実習のしおり」を熟読したうえで望んでください。